

故事成語

逆鱗げきりんに触ふれる

夫それ竜りゅうの虫むしたるや、

柔じゅうなるときは狎ならして騎のるべきなり。

然しかれども其その喉こう下かに逆鱗げきりんの径尺けいしゃくなる有あり。

若もし人ひと之これに嬰ふるる者もの有あらば、

則すなはち必かならず人ひとを殺ころす。

人主じんしゅ亦また逆鱗げきりん有あり。

説とく者もの能よく人主じんしゅの逆鱗げきりんに嬰ふるること無なくんば、

則すなわち幾ちかし。

そもそも竜りゅうという動物は、

おとなしいときは飼かい慣ならして背せに乗のることができ。

しかしその喉のどの下に直径一尺の逆鱗さかに生うえた鱗うろこがある。

もしそれに触さわる者がいたなら、

竜は必ずその人を殺す。

人間の君主にもまた逆鱗がある。

意見を述べる者は君主の逆鱗に触れないようにすることができれば、

成功に近い。